

2006年度（平成18年度）活動報告

I. セミナー

テーマ	講師（所属機関）	司会	期日	共催者
Globalisation and Tradition: Halloween in Australia, France and Japan	Stephen Alomes (Deakin University)	能登路雅子	2006.4.19	
Beaches, Flags, and Australian Multiculturalism	Les Terry (CPAS オーストラリア 客員教授 / Victoria Uni- versity)	能登路雅子	2006.5.16	東京大学大学院 総合文化研究科 地域文化研究専攻
Sex and Marriage in Japan and Australia: Comparing Young Peo- ple's Attitudes to Sharing House- work and Making Reproductive Decisions	Chilla Bulbeck (University of Adelaide)	エリス俊子	2006.5.24	
Recent Developments in Ameri- can/Ethnic Studies in the U. S.: A View from Hawai`i	Gary Okihiro (Columbia University)	能登路雅子	2006.5.31	アメリカ学会
Mapping Civilization: Temperate Workers, Tropical Savages, and the Labour of Empire, 1898-1920	Daniel Bender (University of Toronto)	岡山裕	2006.6.2	アメリカ学会
Henry Ward Beecher's Abolition- ist Performances: Slave "Auction- s" at Plymouth Church in Brook- lyn, 1848-1860	Richard W. Fox (University of Southern California)	遠藤泰生	2006.6.6	上智大学アメリカ・ カナダ研究所 アメリカ学会
Race-Making and Colonial Viole- nce: The Philippine-American War as Race War	Paul Kramer (Johns Hop- kins University)	遠藤泰生	2006.6.20	アメリカ学会
Imperial Alternatives: Pacific Interventions and America's Rise to Global Power	Michael Adas (Rutgers University)	西崎文子 (成蹊大学)	2006.8.2	アメリカ学会 基盤研究(A)「グ ローバル化時代 における『アメリ カ化』と『反米主 義』の国際的比 較研究」
Soft Cities: Software and the Remaking of the North American City	Rob Kitchin (National University of Ireland, Maynooth)	Sheila Hones	2006.10.6	アメリカ学会 21世紀 COE 「共 生のための国際 哲学交流センター」 (以下 UTCP)
Transnational Lives: Glocalised Resistance among Naturalized Chinese Americans	Tritia Toyota (UCLA/ Visiting Professor, Shih Hsin University, Taiwan)	能登路雅子	2006.11.14	アメリカ学会 UTCPC

テーマ	講師（所属機関）	司会	期日	共催者
Japanese American Resettlement: Through the Lens	Lane Ryo Hirabayashi (UCLA)	小澤智子 (白百合女子大学非常勤講師)	2006.11.15	アメリカ学会 UTCP
Divided Allegiances: American College Life and the Children of Immigrants	Karen Rosenblum (George Mason University/東京大学、日本女子大学フルブライト招聘教授)	矢口祐人	2006.12.5	アメリカ学会 UTCP
Supplanting Societies: A New Dynamic for Understanding World History	David Day (CPAS オーストラリア客員教授/La Trobe University)	能登路雅子	2006.12.13	東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻 UTCP
Visions of American Empire	Desmond King (University of Oxford) David Farber (Temple University)	遠藤泰生	2007.3.10	アメリカ政治研究会 アメリカ学会

II. シンポジウム

CPAS シンポジウム 2006

専門家会議 U.S. Cultural Diplomacy in Asia: Strategy and Practice

日時：2006年9月30日 10:00-12:00

場所：東京大学駒場キャンパス 18号館コラボレーションルーム 1

プログラム：

Chair: Yasuo Endo (University of Tokyo)

Panelists:

Susan Smulyan (Brown University)

“Using Hollywood Films to Teach Democracy: SCAP Film Policy in Occupied Japan”

Fumiko Fujita (Tsuda College)

“US Cultural Diplomacy toward Japan during the Cold War”

Thomas Zeiler (University of Colorado, Boulder)

“Baseball Ambassadors and Globalization”

Discussant: Masako Notoji (University of Tokyo)

シンポジウム 「日米関係のコンテクスト」

日時：2006年9月30日 14:00-17:30

場所：東京大学駒場キャンパス 18号館ホール

プログラム：

挨拶 西中村浩（東京大学大学院総合文化研究科副研究科長）

能登路雅子（東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター長）

司会 小寺彰（東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター教

授)

報告 山本吉宣 (東京大学名誉教授・青山学院大学国際政治経済学部教授)

「アメリカ外交の理念と政策」

森本敏 (拓殖大学海外事情研究所長)

「日米同盟の変質と今後の課題—アジア太平洋における日米同盟の役割」

Charles D. Lake II (在日米国商工会議所会頭)

「日米経済関係のコンテクスト—更なる連携強化を目指して」

久保文明 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)

「アメリカの政策決定における日本問題」

討論 李元徳 (韓国国民大学校副教授)

岡山裕 (東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター助教授)

主催：東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター

共催：東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻

東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻

21世紀COE「共生のための国際哲学交流センター」

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (A)「アジアにおけるアメリカ文化外交の展開と変容」

[共催シンポジウム]

Remembering Yuji Ichioka: A Transpacific Dialogue

—ユウジ・イチオカ教授追悼シンポジウム

フォーラム

Yuji Ichioka: His Life, Works, and Legacy in Immigration Studies

「ユウジ・イチオカと移民研究」

日時：2006年7月16日 14:00-17:00

場所：東京大学駒場キャンパス 18号館ホール

モデレーター：Don Nakanishi (Director, Asian American Studies Center, UCLA)、能登路雅子 (東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター長)

プログラム：

開会の辞 能登路雅子、Don Nakanishi

日系人史・イチオカ教授論文集解説 東栄一郎 (Assistant Professor, University of Pennsylvania)

Before Internment: Essays in Prewar Japanese American History (Stanford University Press, 2006)

イチオカ先生を語る：日本編 飯野正子 (津田塾大学長)、桑井輝子 (白百合女子大学教授)、村上由見子 (作家/慶応大学講師)、庄司啓一 (城西大学教授)、富田虎男 (立教大学名誉教授)、米山裕 (立命館大学教授)、油井大三郎 (東京大学名誉教授/東京女子大学教授) 他

イチオカ先生インタビュービデオ紹介 聞き手 Loni Ding

イチオカ先生を語る：アメリカ編 Brian Niiya (University of Hawaii), Karen Umemoto (University of Hawaii), Tritia Toyota (UCLA), Edward Park (Loyola Marymount University) 他

自由討論 ご参加の皆様によるコメント

閉会の辞 Don Nakanishi/能登路雅子

レセプション

日時：17：30-19：30

場所：東京大学駒場キャンパス 18号館4階オープンスペース

共催：東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) アジア系アメリカ研究センター

後援：移民研究会、UCLA 日本同窓会

HYI Alumni Meeting in Japan 2006 歴史学とアジアの近代的学問編成

日時：2006年7月22日

場所：東京大学駒場キャンパス18号館ホール

プログラム：

司会 中島隆博 (東京大学、JAHYI 世話人会幹事)

閉会の辞 遠藤泰生 (東京大学、JAHYI 世話人会幹事長)

基調講演 辛島昇 (東京大学名誉教授、大正大学)

「南アジア史の状況から東洋史の研究と教育を再考する」

講演 岸本美緒 (東京大学)

「『東洋学の磁場』—持続と変容」

大塚和夫 (東京外国語大学)

「歴史人類学からみた歴史学」

シンポジウム「歴史学とアジアの近代的学問編成」

司会 村田雄二郎 (東京大学、JAHYI 世話人会幹事)

コメンテーター 小谷汪之 (学術会議)、陳熙遠 (中央研究院)、白永瑞 (延世大学)、王中忱 (清華大学)

閉会の辞 ピーター・ケリー (HYI 事務局長)

主催：日本ハーバード・イェンチン研究所同窓会

共催：日本学術会議、東方学会、東京大学アメリカ太平洋地域研究センター

協賛：国際交流基金

III. 研究プロジェクト

- ・文部科学省研究費補助金・基盤研究 (A) 「アジアにおけるアメリカ文化外交の展開と変容」 (代表：能登路雅子)
- ・21世紀 COE プログラム「共生のための国際哲学交流センター」への協力
- ・日米文化教育交流会議 (カルコン) 監修デジタル教材「クロスカレンツ」開発プロジェクトへの企画・編集協力

IV. 出版活動

- ・『外部評価報告書』(2006年7月)
 - ・『CPAS Newsletter』Vol. 7, No. 1 (2006年9月)、No. 2 (2007年3月)
 - ・『アメリカ太平洋研究』第7巻(2007年3月)
- (すべて <http://www.cpas.c.u-tokyo.ac.jp/pub/index.html> よりダウンロードできます。)

V. 外部評価

- ・『外部評価報告書』を2006年7月に発行 (<http://www.cpas.c.u-tokyo.ac.jp/pub/index.html> に掲載)。
- ・アメリカ太平洋地域研究センター外部評価委員会委員

氏名	所属・役職名
大塚 寿郎	上智大学アメリカ・カナダ研究所 所長
ルーシー・キング*	オーストラリア大使館 豪日交流基金 事務局長
小林 憲二	立教大学 アメリカ研究所 所長
デビッド・H・サターホワイト	日米教育委員会(フルブライト・プログラム) 事務局長
レオニー・ボクステル*	前オーストラリア大使館 豪日交流基金 事務局長
和久本 芳彦	国際文化交流推進協会理事長/元国際交流基金日米センター所長

50音順

*ボクステル氏は2006年1月4日に豪日交流基金事務局長を退職されたため、後任のキング氏に外部評価委員を新たに委嘱し、外部評価意見書を提出していただいた。

VI. センター所属教員の本年度の研究活動

能登路雅子

[分担執筆]

- ・Introduction and Comments for the Symposium, "US Cultural Diplomacy in Asia: Strategy and Practice," 『アメリカ太平洋研究』第7号(2007年3月)。

[その他の執筆]

- ・「ユウジ・イチオカ教授追悼シンポジウム『ユウジ・イチオカと移民研究』」『CPAS Newsletter』Vol. 7, No. 1 (2006年9月)、12-14頁。

[口頭発表]

- ・コメント、CPAS 専門家会議 US Cultural Diplomacy in Asia: Strategy and Practice. 東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター、日本学術振興会科学研究費補助金基盤(A)「アジアにおけるアメリカ文化外交の展開と変容」主催、東京大学、2006年9月30日。
- ・分科会企画・報告、“The Long-term Significance and Mutuality of Intellectual Exchange,” Roundtable: The American Studies Association-Japanese Association for American Studies Project: Critiques and Accomplishments, American Studies Association, Oakland, US, 13 October 2006.

〔その他の活動〕

- “Report of the Digital Culture Oversight Committee to CULCON XXII,” 日米文化教育交流会議第 22 回合同会議. 米国ボーズマン市. 24 July 2006.

小寺 彰

〔共編著〕

- 『国際法キーワード（第 2 版）』（有斐閣、2006 年）奥脇直也ほかと共編。

〔共編〕

- 『国際条約集 2006』（有斐閣、2006 年）大沼保昭ほかと共編。

〔分担執筆〕

- 『北東アジア FTA 推進の在り方』（日本機械輸出組合、2006 年）深川由希子ほかと共著。
- 「投資協定の新局面と日本第 1 回投資協定と仲裁」『国際商事法務』34 巻 8 号（2006 年）、982-987 頁、松本加代と共著。
- 「投資協定の新局面と日本第 2 回サルカ事件」『国際商事法務』34 巻 9 号（2006 年）、1141-1148 頁、松本加代と共著。
- 「投資協定の新局面と日本第 3 回日中投資保護協定」『国際商事法務』34 巻 10 号（2006 年）、1305-1317 頁、松本加代と共著。
- 「投資協定の新局面と日本第 4 回サハリン II と投資協定」『国際商事法務』35 巻 2 号（2007 年）、169-175 頁、松本加代と共著。
- 「日本と『国際法問題』」『ジュリスト』1321 号（2006 年）、8-9 頁、奥脇直也と共著。

〔雑誌論文〕

- 「電気通信サービスに関する GATS の構造——米国・メキシコ電気通信紛争・WTO 小委員会のインパクトと問題点」『国際社会科学』55 号（2005 年）、15-35 頁。

〔ディスカッション・ペーパー〕

- 「投資協定における『透明性』—位置づけと対処—」RIETI Discussion Paper Series, 06-J-026（2006 年 4 月）。

〔その他の執筆〕

- 「関税法研究会『とりまとめ』座談会」『関税と貿易』2006 年 10 月号、4-31 頁、水野忠恒等参加。
- 「FTA／投資協定と国際仲裁（上）」『JCA ジャーナル』2006 年 9 月号、72-80 頁、D. W. Rivkin 等。
- 「FTA／投資協定と国際仲裁（下）」『JCA ジャーナル』2006 年 10 月号、79-90 頁。
- 「投資協定仲裁手続きに注目を」『日本経済新聞』4 月 18 日朝刊、（経済教室）。

〔その他の活動〕

- 関税・外国為替等審議会委員（特殊関税部会長）
- 産業構造審議会臨時委員
- 新司法試験考査委員
- 外務省専門職員採用試験委員
- 経済産業研究所ファカルティフェロー
- 日本学術会議連携会員

遠藤泰生

〔分担執筆〕

- ・「公共文化とアメリカの自画像——自国史像の書き換えに見る1980年代、90年代の歴史思潮」アメリカ学会編『原典アメリカ史第9巻』（岩波書店、2006年）、324-334頁。

〔雑誌論文〕

- ・(With Sheila Hones) “History, Distance and Text: Narratives of the 1853-1854 Perry Expedition to Japan.” *Journal of Historical Geography* 32 (2006): 563-578.

〔その他の執筆〕

- ・書評「産むことと男であること：長谷川まゆ帆著『お産椅子への旅』（岩波書店、2006）『教養学部報』497号（2006年4月）。
- ・書評「森本あんり著『アメリカ・キリスト教史——理念によって建てられた国の軌跡』（新教出版社、2006年）『アメリカ学会会報』162号（2006年）、6頁。
- ・エッセイ「ワルシャワのアメリカ研究」『アメリカ学会会報』162号（2006年）、1頁。

〔口頭発表〕

- ・コメント “American Studies as Area Studies and Disciplines in Japan,” New American Studies in Europe Today, The Core Research Project: Rethinking of American Studies in Japan in a Global Age. Tokyo, 11 March 2006.
- ・コメント “Trans-Pacific and Trans-Atlantic Perspectives,” Framing American Studies in Trans-Pacific Perspectives（日本アメリカ学会創立40周年記念国際シンポジウム）、南山大学、2006年6月9日。
- ・報告 “Western Culture and East Asia in Liberal Arts,” Cultural Diversity and Sustainable Development: Role Played by Higher Education. BESETOHA. Hanoi, Vietnam National University. 3 November 2006.
- ・講演「日本人と太平洋」ハノイ・ヴェトナム国家大学・日本学科招待講演、2006年11月6日。

〔その他の活動〕

- ・HYI（ハーヴァード大学イェンチン研究所）日本同窓会シンポジウム運営代表、「歴史学とアジアの近代的学問編成」、アメリカ太平洋地域研究センター、日本学術会議、東方学会共催、東京大学、2006年7月22日。

岡山 裕

〔分担執筆〕

- ・「九・一一テロ後の世界とアメリカ」古矢旬編『史料で読むアメリカ文化史第5巻アメリカの価値観の変容1960年代～20世紀末』（東京大学出版会、2006年）、438-454頁。
- ・「レーガン政権の登場とレーガノミックスの展開」五十嵐武士編『衰退論の登場—1975年から1990年』（岩波書店、2006年）、80-89頁。
- ・“The Scope of Morality’s Role in American Political Development: Response to James A. Morone, ‘Hellfire Nation: Greed, Generosity and God in American Politics,’” *Proceedings of the Kyoto American Studies Summer Seminar, August 1-August 3, 2005*, ed. Yoneyama Hiroshi (Center for American Studies, Ritsumeikan University, 2006), 29-36.

〔その他の執筆〕

- ・書評「川島正樹編『アメリカニズムと「人種」』（名古屋大学出版会、2005年）『西洋史学』222号（2006年）、80-82頁。

〔口頭発表〕

- ・報告「経済専門家と民主主義：アメリカ連邦準備制度導入時における制度選択」日本比較政治学会年次大会、立教大学、2006年10月7日。
- ・討論「日米関係のコンテキスト」東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター、2006年9月30日。

〔その他の活動〕

- ・コメント「国政の構図はまらぬ例も」日本経済新聞、2006年7月13日（特集：地方選「滋賀ショック」）。
- ・解説「共和党敗北 米政治の今後」朝日ニュースター『ニュースの深層 evolution』、2006年11月17日。

〔受賞〕

- ・2006年清水博賞（アメリカ学会）、『アメリカ二大政党制の確立—再建期における戦後体制の形成と共和党』（東京大学出版会、2005年）に対して。

古矢 旬（2006年度 CPAS 委嘱教授）

〔編著〕

- ・『史料で読むアメリカ文化史第5巻アメリカ的価値観の変容 1960年代～20世紀末』（東京大学出版会、2006年）、「概説」（1-44頁）および「都市社会分断の危機」（236-254頁）執筆。

〔分担執筆〕

- ・「第一部概説」アメリカ学会編『原典アメリカ史第8巻衰退論の登場』（岩波書店、2006年）、3-65頁。
- ・“Japanese Intellectuals Define America, from the 1920s through World War II,” *Americanism*, eds. M. Kazin & J. A. McCartin (Chapel Hill: The Univ. of North Carolina Press, 2006), 192-204.

〔その他の執筆〕

- ・書評「本間長世『共和国アメリカの誕生——ワシントンと建国の理念』（NTT出版、2006年）」『アメリカ太平洋研究』第7号（2007年3月）。
- ・インタビュー「民主党の勝利で米国は変わるか——中間選挙の結果が意味するもの」『世界』2007年1月号。

〔口頭発表〕

- ・報告「アメリカニズム再訪」北海道アメリカ文学学会年次大会、藤女子大学、2006年12月2日。
- ・報告「アメリカ・ポピュリズムの現在」北大政治研究会、2006年11月17日。
- ・報告「アメリカ・ポピュリズムへの（からの）問題視角」、神戸大学、2006年10月28日。
- ・討論、Session: Democracy in Globalization, International Seminar: Questioning from the

Borderline: Cross-Cultural Dialogue in Tackling a Global Agenda, Organized by The International House of Japan, 国際文化会館、2006年7月19-22日。

- ・報告“A New Perspective of American History from the Other Side of the Pacific.” American Studies in Trans-Pacific Perspective (日本アメリカ学会創立40周年記念国際シンポジウム)、南山大学、2006年6月9日。

梅崎 透

〔分担執筆〕

- ・「ハリバートン」、「グラウンド・ゼロ」、「マイケル・ムーア」矢口祐人・吉原真理編『現代アメリカのキーワード』(中公新書、2006年8月)、116-120, 126-129, 207-212頁
- ・「若者の政治文化」アメリカ学会編『原典アメリカ史社会史資料編』(岩波書店、2006年)、302-309頁。
- ・「権威の崩壊とネオコンサヴァティヴの源流」古矢旬編『史料で読むアメリカ文化史第5巻アメリカ的価値観の変容1960年代～20世紀末』(東京大学出版会、2006年)、280-292頁。

〔翻訳〕

- ・キャロル・グラック著・梅崎透ほか訳『歴史で考える』(岩波書店、2007年近刊)。

〔その他の執筆〕

- ・「“Sex and Marriage in Japan and Australia” チーラ・バルベック・セミナー参加記」『CPAS Newsletter』Vol. 7, No. 1 (2006年9月)、6頁。

〔口頭発表〕

- ・コメント、Alan Dawley, “American Exceptionalism in the Context of American Empire,” 国際ワークショップ、日本学術振興会・人文・社会科学振興プロジェクト研究事業：領域Ⅱ「平和構築」/「アメリカ研究」の再編、および文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)「グローバル化時代における「アメリカ化」と「反米主義」の国際的比較研究」、札幌、2006年8月5日。
- ・報告「第三世界革命とアメリカ新左翼運動の展開—ニューヨーク自由大学と1968年ハバナ文化会議」同時代史学会定例研究会、立教大学、2006年10月7日。

〔その他の活動〕

- ・パネリスト「大学院生のための渡米前オリエンテーション」日米教育委員会(フルブライト・プログラム)、2006年5月12日。